

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	令和4年度 第2回 枚方市食育推進計画審議会
開催日時	令和5年3月22日（水） 午前10時30分～正午
開催場所	枚方市役所（旧市民会館）第3分館 3階 第4会議室
出席者	黒川通典会長、勝麻衣子委員、田中和紗委員、 末岡妙子委員、衣笠真佐美委員、山名美奈子委員、 井筒知子委員
欠席者	吉本優子副会長、井上努委員、富田丈滋委員、石川裕子委員、 山中加奈子委員
案件名	1. 第3次枚方市食育推進計画の最終評価に係るアンケート調査の集計結果について 2. 第3次枚方市食育推進計画の最終評価及び最終評価報告書（素案）について 3. その他
提出された資料等の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1：第3次枚方市食育推進計画の最終評価に係るアンケート調査の集計結果について ・資料2：第3次枚方市食育推進計画の最終評価一覧（案） ・資料3：第3次枚方市食育推進計画の最終評価報告書（素案） ・資料4：今後のスケジュール（案） <ul style="list-style-type: none"> ・参考資料1-1：「食」に関する市民意識調査集計結果 1-2：小中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート集計結果（抜粋） 1-3：高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケート集計結果（抜粋） 1-4：「食」に関するアンケート（大学生・専門学校生）集計結果 1-5：小中学校での食育の取り組みに関するアンケート集計結果 1-6：保育所（園）・幼稚園・認定こども園・小規

	<p>模保育施設における食育の取り組み状況アンケート集計結果</p> <p>・別紙：第3次枚方市食育推進計画の最終評価に係るご意見・ご提案（回答様式）</p>
決 定 事 項	<p>1. 各アンケート調査のまとめ方について決定した。</p> <p>2. 第3次枚方市食育推進計画の最終評価について、各指標の評価結果を決定した。ただし、暫定値は除く。</p> <p>3. 次回の審議会には最終評価報告書（案）を示すことを決定した。</p>
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 (事 務 局)	健康福祉部 健康寿命推進室 健康づくり・介護予防課

審 議 内 容	
黒川会長	<p>ただいまから、令和4年度第2回枚方市食育推進計画審議会を始めます。失礼して着席をさせていただきます。</p> <p>すっかり春の陽気を感じるようになりましたけれども、皆様方には年度末の大変お忙しい中、またWBCで非常に盛り上がっている状況にもかかわらず出席をいただきましてありがとうございます。</p> <p>それでは、案件に入る前に事務局から委員の出席状況並びに傍聴希望者について御報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の委員の出席状況ですが、委員12名中7名の出席をいただいておりますので、枚方市附属機関条例第5条第2項に基づき本会議が成立していることを御報告いたします。</p> <p>なお、吉本副会長、井上委員、石川委員、山中委員、富田委員につきましては、事前に欠席の御連絡をいただいております。</p> <p>また、本日の傍聴希望者はございません。</p> <p>なお、事務局側に、本計画策定支援の委託先事業者の職員も同席しておりますことを、御報告いたします。事務局からは以上です。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速案件に入らせていただきたいと思います。</p> <p>本日は、第3次食育計画の評価というところで、いろいろな御意見をいただくことになってございます。</p> <p>まず、案件1、第3次枚方市食育推進計画の最終評価に係るアンケート調査の集計結果について、事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>説明に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、お手元に本日の「次第」、続いて「資料1」「資料2」「資料3」「資料4」「参考資料1-1」から「1-6」、最後に「別紙」を配付しております。</p> <p>また、本日の資料のうち、「資料2」と「資料3」の7ページ、8ページ～9ページの表、12ページ、13ページ、19ページにつきましては、事前に送らせていただいたものから加筆修正している箇所がありますので、本日修正した資料をお配りしております。具体的な修正箇所につきましては、案件説明の際に併せて説明をさせていただきますのでよろしく申し上げます。</p> <p>資料の過不足等はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、ここから着座にて説明をさせていただきます。</p> <p>案件1、第3次枚方市食育推進計画の最終評価に係るアンケート調査の集計結果について、説明をいたします。</p>

資料1を御覧ください。

第1回の審議会の際にアンケートの内容について御審議いただきましたが、その後、各種アンケートを実施し、調査内容を資料1としてまとめております。

アンケートの集計結果につきましては、単純集計ではございますが参考資料1-1から1-6としてお示ししておりますので、併せて御確認ください。

それでは、資料1に戻りまして、各アンケートの調査内容を御説明いたします。

まずは1、「食」に関する市民意識調査についてです。

対象者は、20歳以上の無作為抽出した3,000人の市民で、アンケートを郵送し返信用封筒で返信、またはインターネットで回答を得ました。有効回答数は1,273人で、回収率42.4%でした。

次に2、小中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケートについてです。

対象は、市内公立小学校の小学6年生のうち8校741人と、市内公立中学校2年生のうち4校815人を対象に実施しました。有効回答数は、小学生572人で回収率77.1%でした。中学生につきましては、288人(暫定)と記載していますが、最終的に501人のデータを収集することができ、現在集計作業中ですが回収率は61.4%となっています。

なお、参考資料1-2、1-3につきましては、食や生活習慣に関連したものだけを抜粋して、集計結果を記載しております。

続きまして3、高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケートについてです。

対象は、市内公立・私立高校のうち、協力を得られた学校生徒で10校、1～3年生に回答をいただきました。有効回答数は890人ですが、回収率につきましては学校側の協力をいただける範囲で学生に任意でアンケートの回答依頼をしていただいたため、対象人数を正確に把握できないことから、回収率は記載しておりません。

なお、参考資料1-4につきましては、食に関連する回答のみを抜粋して、集計結果を記載しております。

次に4、「食」に関するアンケート、大学生・専門学生についてです。

対象は、市内大学・専門学校のうち、協力を得られた学校の学生で7校、1～4年生に回答をいただきました。有効回答数は744人で

	<p>すが、回収率につきましては、先ほどの高校生アンケートと同様、学校側に協力いただける範囲で学生に任意でアンケートの回答を依頼していたため、対象者人数を正確に把握できないことから記載をしておりません。</p> <p>次に5、小中学校での食育の取組に関するアンケートについてです。</p> <p>対象は、市内公立小学校44校、市内公立中学校19校で、養護教諭や栄養教諭等に回答をしていただきました。有効回答数は、小学校34校回収率77.3%、中学校18校回収率94.7%となっています。</p> <p>最後に6、保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設における食育の取組状況アンケートについてです。</p> <p>対象は、市内公立及び私立の保育所(園)55施設、幼稚園15施設、認定こども園11施設、小規模保育施設15施設に令和3年度の取組状況について回答をいただきました。有効回答数は、92施設で回収率は95.8%でした。施設ごとの有効回答数等の内訳は、資料にお示しのとおりですので御確認ください。</p> <p>各アンケートの単純集計である参考資料1-1から1-6についての説明は割愛させていただきます。</p> <p>案件1について、事務局からの説明は以上となります。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま御説明がありました案件1について、御質問、御意見、御感想等がありましたら、御発言をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、アンケートですけれども、さらにこういうことが知りたいとか、こういうことを教えてほしいという、そういうリクエストがありましたら、分析していただけるということですので、そういったことも含めての御意見を頂戴できたらと思います。</p> <p>まず口火を切らせていただきますと、このアンケートの参考資料のところで驚いたところが幾つかございます。例えば、参考資料1-1の7ページで「枚方市の郷土料理を知っていますか」の問いに、ほとんどの方が知らないと答えています。これに大変驚いたのですが、要するにお父さん、お母さんの世代から知らないのか、それとも子どもが知らないのか、おじいちゃん、おばあちゃんの世代は多分知っていると思うのですけれども、どの辺りから知らないという人が増えてきたのか年代別に分析していただけたらなと思いました。</p> <p>それから、その左側ですけれども、朝食のところですね。いつも一人で食べているという方が結構多い。朝食、昼食、夕食を含めて結構</p>

	<p>多いなという印象ですけれども、この人たちの家族構成は、一人暮らしなのかどうかということも教えていただけたらと感じました。</p> <p>その他、御意見がありましたら、あるいはリクエストがありましたら、どうぞ御遠慮なく御発言をお願いしたいと思います。</p> <p>どうでしょうか。</p>
山名委員	<p>今、黒川会長がおっしゃった郷土料理に関してですが、私は地域で活動しておりますので、その辺りも少し関心がありましたので、皆さんに聞いてみたことがありました。私の年代でも知らない方はいっぱいいました。というのは、枚方市で育っていないからで、その料理を知らなかった。また、親が枚方市民ではない場合なども要因になっているのかなと思います。郷土料理をみんなに知ってもらおうと思うのであれば、PR活動が必要だと思っております。</p> <p>例えば、以前に郷土料理をテーマにしたコンテストに応募したことがあって、その時は枚方市の郷土料理をテーマにやったのですが、今から考えれば、あの時にもっともっと広める活動をすればよかったなと思っています。そのときはもうコンテストが終わって「ああよかった、終わったわ」で済んでしまったのですが、PRしなかったことが後悔している部分としてあります。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p>
田中委員	<p>先ほどの郷土料理の件ですけれども、私自身はずっと枚方で生まれ育って枚方の公立小学校を卒業しています。私の頃は給食には郷土料理は出なかったのですが、今在籍しています子供たちに聞いてみると給食で出るそうです。だから多分年をめされた方と今お子さんの方が知っており、実は保護者の年代の方々が知らないということ、その年代が抜けているのではないかなと思います。以上です。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>小学校の給食でも取組がなされているということですね。小学校でそういった取組がなされている、その取組を通じて親御さんたちにその情報を伝えていければいいのかもしれないですね。そういった伝統文化も継承していけたらなと思います。</p> <p>他にございませんか。はい、どうぞ。</p>
末岡委員	<p>すみません、良い悪いという問題ではないのですが、小学校や中学校、保育園とか色々なところにアンケートを依頼して、全く返ってこない、答えてもらえない学校や園というのはなぜでしょうか。枚方市からの依頼であれば、渋々でもやるものなんじゃないかなと思っていました。働き方とかの理由で、アンケートに関わっている時間がない</p>

	<p>のか、子どもたちの時間を取るわけにいかないという考え方なのか。やってくれなきや困ると思っっているわけでもないですが、やはり差があるというのは、どういう考え方で受け手の方が思っくれているのか。このアンケートの重要性というものを結局感じていただけてないからそういうことになるのだろうとは思っのですが、反応に差があるのが面白いと思っました。</p>
黒川会長	事務局から、何かありますか。
事務局	<p>アンケートを依頼させていただくに当たりましては、アンケートの意図などの説明をさせていただきました。回答につきましては、まだ返ってきてない各校には再度説明と御依頼をさせていただいて、何とか回答率を上げようと努力したものです。</p> <p>しかし、アンケートを実施した時期が年末であったこともあり、回答期間を延ばしたりもしたのですが、3学期のテスト期間の時期にも近かったこともありまして、このような結果になりました。</p> <p>次回、このようなアンケートを依頼する際には、時期も含めまして検討していきたいと思っしております。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p> <p>では、ほかに御意見、御感想でも結構です。はい、お願いします。</p>
田中委員	<p>すみません。私、小学校のPTAに属しておりますので小学校の話がほとんどになってしまうのですが、参考資料1-5を見ていただきまして、問4のところ。「調理実習の実施」というのが29という形になっており、これはコロナになってからあまり行えなかったということもあるのですが、私の子どもが通っております小学校ではお米の栽培をしております。近くに山田池公園がございますので、そちらをお借りし、そちらでお米の田植えから収穫までやったり、あとみそ作りなども行っています。やっぱり学校の立地によって違いがあり、すごくやっていらっしやる学校とそうじゃない学校があるというのは感じております。</p> <p>あと、問5ですね。「給食試食会や食育に関する懇談会の開催」が2件となっておりますが、これもコロナになる前は年に2回行っておりました。最初に1年生で入られたお子さんがほとんど参加されるような小学校の給食試食会と、あと6年生向けに中学校の給食試食会というも行っておまして、その際に保護者の方にも御参加いただける形でおいしい給食課と一緒に開催させていただいておりました。今は開催できてないので、例年でしたらもっと開催されているものになります。以上です。</p>

黒川会長	ありがとうございました。どうぞ。
山名委員	今の給食に関してですが、米飯の回数を3回から4回にするというのが目標に上がっていたと思うのですが、それが3回のままになっています。これが4回に増やせない何か原因というか、理由みたいなのはあるのでしょうか。
黒川会長	事務局、お願いします。
事務局	後ほど案件2でまとめて説明させていただきます。今は概要だけを説明させていただいておりますので、後ほど同じような質問をしていただければと思います。よろしくお願いします。
黒川会長	他にございますか。 井筒委員、情報発信の立場というのがあるかと思うのですが、何かお感じになったところとかはございますか。
井筒委員	そうですね、アンケートの調査結果の集計データを見たところ、上記の1から4までについては生徒とかに向けたものなので回答率が低いのはしょうがないなと思っていました。中学校、保育園に比べて小学校の回答率がとても少ないと思っていましたが、先ほど御回答していただいたので、大丈夫です。ありがとうございます。
黒川会長	ありがとうございます。 学校によってもいろいろな取組の違いがあるということなので、意識の違いもひょっとしたらあるかもしれないですね。 他にございますか。 それでは、私を感じたものがもう1点ございまして、高校生・大学生に対する調査ですけれども、「食育という言葉聞いたことがない、知らない」が一定数ございまして、この御時世に食育という言葉知らないという方がいるということ自体に、驚きを感じたということがございます。 高校生では参考資料1-3の1ページに「あなたは食育に関心がありますか」で、高校生は「「食育」という言葉や内容自体を知らない」というのが13.5%、120人いました。大学生も同じような質問で、結構な数で知らないということが出てまいりました。高校生・大学生というものが、健康教育のターゲットとしてはちょっとウイークポイントになっているというのがこれまでもありまして、高校生・大学生に対する働きかけというのが以前から一つの課題にはなっているかと思えます。この辺りもまた考えていかなければならない課題なのかもしれないと感じました。 他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

	<p>それでは、続きまして案件2、第3次枚方市食育推進計画の最終評価及び最終評価報告書について、事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、案件2の説明をさせていただきます。</p> <p>まずは資料2、第3次枚方市食育推進計画の最終評価一覧を御覧ください。</p> <p>お示ししました一覧表につきましては、左の欄より計画策定時に設定した指標、策定時の値、中間評価時の値及び現状の値、そして目標値、達成状況を記載しており、現状の欄には今回実施しましたアンケートの集計結果や各種事業等の取組実績を記載しております。</p> <p>また、一番右にある達成状況の欄につきましては、現状値における達成状況を達成度A、B、Cでお示ししています。この達成度につきましては、中間評価時と同様の評価基準にて評価を行っているもので、Aは「目標達成」、Bは「目標は達成していないが改善傾向であるもの」、Cは「変化なし及び悪化したもの」となっています。</p> <p>なお、達成状況の欄に暫定と記載しているものにつきましては、現状値には令和3年度のデータを記載しているもので、次回の審議会には令和4年度の最新のデータに変更する予定の項目であるため、暫定と記載しているものになります。</p> <p>また、指標⑫「食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加」に関しましては、達成状況の判定を修正しておりますので、事前にお送りしている資料から変更しております。</p> <p>資料2の裏面を御覧ください。</p> <p>こちらの図表は、達成状況別にまとめたものとなります。先ほど説明した指標⑫の達成状況の修正に伴い、表とグラフが変更となっておりますのでご確認をお願いします。</p> <p>今回の最終評価時における達成状況ですが、資料上段の右側の表を御覧ください。</p> <p>Aの「目標達成」は1項目で4.2%、Bの「目標は達成していないが改善傾向」は8項目で33.3%となり、合わせて9項目、37.5%が達成もしくは改善傾向である状況となりました。また、Cの「変化なし及び悪化」は62.5%となっています。</p> <p>左側の表は中間評価時の状況となります。Aが2項目で9.5%、Bが5項目、23.8%、合計が33.3%で、中間評価時と最終評価の達成状況を比較しますと、中間評価時より達成もしくは改善傾向を合わせた割合は多くなっている結果となっています。</p>

次に、資料3を御覧ください。最終評価報告書（素案）となります。ページをめくり目次を御覧ください。最終評価報告書の構成としましては、第1章から第3章までとしています。

1ページを御覧ください。

第1章には、第3次枚方市食育推進計画の概要としまして、1. 基本理念、2ページには推進する施策及び3. 計画期間を記載し、3ページからは4. 中間評価の概要としまして（1）中間評価時における目標達成度の概要、4ページ、5ページには（2）中間評価時の指標ごとの目標達成状況の一覧表を記載しています。

続いて、6ページを御覧ください。

第2章では、最終評価について記載する予定としています。6ページから7ページにかけては、1. 最終評価の概要として、（1）最終評価の流れ、（2）調査の方法、（3）最終評価の方法及び、（4）基本方針ごとの目標達成状況を記載しております。

なお、7ページに記載しております下段の表、及び8ページ、9ページの2. 各指標に関する最終評価の一覧につきましては、先ほど御説明したとおり、指標⑩の達成状況の修正に伴い事前にお配りした資料から変更しております。

10ページ～23ページにかけては、指標ごとの達成状況について、それぞれ策定時の値、中間評価時の値、現状の値、目標値、達成状況を表として記載し、折れ線グラフとコメントを併せてお示ししています。時間の関係上、全ての説明は割愛させていただきますが、主なものにつきまして、説明させていただきます。

10ページを御覧ください。

本計画の包括事業として設定しています項目番号①「食育に関心のある人の増加」及び②「食育活動を実施している人の増加」につきましては、策定時と比べて現状の値が上昇しており、最終評価時の達成状況は「B」となっております。食育全体に取組は、この間一定進んだものと考えております。

12ページを御覧ください。

基本方針1、若い世代を中心とした食育推進の一つであり、重点的に取組指標として設定している項目番号3-③-2「朝食を欠食している小中学生・高校生の減少」につきましては、その間大きな変化は見られませんが、小学生は現状値が6.2%となり、策定時より0.3ポイントの増加、中学生は現状値が9.5%となり、策定時より1.6の増加となっています。それぞれ最終評価時の達成状況は「C」とな

りました。

国においても、朝食の欠食状況につきましては大きな変化は見られないものとしていますが、平成28年度と令和4年度のデータを比較しますと、小学生は1.1ポイントの増加、中学生は1.5ポイント増加しており、本市の小学生については、全国より増加率は低い状況となっています。

次に、12ページの高校生の状況、及び13ページにお示ししています大学生・専門学生の状況について御覧ください。

いずれも達成状況の判定に関しましては、中間評価時の値と現状値を比較し、評価したものとなっています。高校生及び大学生、専門学生につきましては、策定時のアンケートは各学年2クラスずつを対象に全数回答していただくよう学校に依頼しましたが、中間評価時には各学年全クラスにインターネットによる任意回答を依頼したため、策定時とアンケートの実施対象者及び実施方法が異なり単純比較ができないことから、中間評価時に判定は行いませんでした。

今回は、中間評価時と同じインターネットアンケートによる任意回答を依頼しましたので、中間評価時の値と比較し、達成状況を判定したのとなっています。

12ページ、13ページにおきましては、事前にお配りしている資料から表の達成状況の欄にアスタリスク及び下段にコメントを追加し、また折れ線グラフにつきましては、策定時と中間評価時のつなぎ線を削除し、表示方法を変更してお示ししておりますので御確認ください。

現状としましては、高校生は7.2%となり、中間評価時より3.1ポイントの増加、大学生・専門学生につきましては、男性の現状値が16.6%で9.3ポイントの増加、女性が13.5%で7.1ポイントの増加となり、それぞれ最終評価時の達成状況は「C」となりました。

次に、15ページを御覧ください。

目標項目⑤及び⑥については、保育所（園）や幼稚園及び認定こども園、小規模保育施設における食育活動における指標となります。策定時から中間評価時まで、いずれもほぼ横ばいで推移していましたが、最終評価時ではいずれの取組も実施率が低下し、最終評価時の達成状況は「C」となりました。これは、令和3年度の取組についての回答でしたので、保育所（園）等で講じた新型コロナウイルス感染症の感染対策の徹底によることが大きな要因かと考えております。

続いて、19ページを御覧ください。

基本方針2、健康寿命の延伸につながる食育の推進の項目番号⑫「食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加」ですが、この指標は第1次計画から引き続き、使用しているものとなります。本指標につきましては、第1次計画で用いた質問から第3次計画策定時及び中間評価時に回答方法を変更した結果、第1次計画のデータより大きく低下した結果となりました。

このような結果を踏まえまして、質問の回答方法について本指標を判定するには実態として合わない可能性があるのではないかと、中間評価時に御指摘があったため、今回は回答方法を過去と同一のものに戻したものとなっています。

その結果、現状値としましては47.1%となり、策定時に比べ25.1ポイントの増加となりました。ただし、達成状況は第3次計画の策定時及び中間評価時のデータとは単純比較できないことから、ハイフンを表記しております。

こちら、事前にお送りしている資料から達成状況の欄の記載を変更しておりますので、御確認のほどよろしく申し上げます。

続いて、20ページを御覧ください。

基本方針3、ネットワークによる食育推進と食文化の継承の指標の一つである項目番号⑭「地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加」につきましては、現状値が17.3%となり、策定時より43.6ポイントの減少となっており、達成状況は「C」判定となっております。C判定となった理由につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大により、講座等の取組が行えなかったことが大きな要因となっているものと考えております。

また、22ページの基本方針4、地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進の指標である項目番号⑯「地元農産物の直販会や回数の増加」、及び23ページの項目番号⑳「農業体験に参加する人の増加」につきましても、現状値につきましては新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、直販会や農業体験会が開催できなかったことが大きく影響し、ともに減少している状況となり、達成状況は「C」となっております。

次に、23ページの上段になりますが、項目番号⑰「食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加」につきましては、現状値が97.0%となり、策定時より19.7ポイントの増加となっており、目標値の85%を上回り「A」判定となっております。

	<p>最後に、24ページを御覧ください。</p> <p>第3章として、最終評価から見えてきた課題と今後の取組の方向性について記載予定としております。記載にあたりましては、本指標以外のアンケートデータをはじめ、庁内関連部署や関係機関の取組、及び国・府から得られる関連データも活用していきたいと考えております。</p> <p>内容につきましては、(1)から(3)にお示しのとおり、国の動向や社会環境の変化について記載するとともに、4つの基本方針ごとに最終評価の総括を行い、最後にまとめて今後取り組むべき方向性について記載してまいりたいと考えております。</p> <p>記載の内容の詳細につきましては、次回の審議会でお示しする予定です。</p> <p>案件2について、事務局からの説明は以上となります。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>最終評価及び最終評価報告書素案について、資料2、資料3の御説明をいただきました。</p> <p>では、ただいま御説明いただいた件につきまして、御質問、御意見がありますでしょうか。</p>
末岡委員	<p>すみません、計画というのは常に机上のものだなと実感をしております。私は審議会とかに関わらせていただいていたいて、昨年、この食育推進計画審議会でも、また福祉に関する会議でも中学校の給食アンケートにお答えのあった「1日1食しか食べられてない」と答えた小学生児童が19人いるという問題、これは小学校3年から6年の児童、回収率が27.1%というアンケートで19人いたということを、確かここでもお話させていただいたはずです。そして、福祉に関する会議でも言いました。誰も、誰も動いてくれませんでした。今年、副市長にお会いした時に、このアンケート結果は見たと言われました。ただ、やはり実感が湧かなかったというか、数字としか捉えられていなかったようです。じゃあ、この子たちは一体どんな生活をしているのだろうかという思いが、こういうアンケートの答えから読み取れてないというところに、一番大きな問題を感じます。</p> <p>そして、例えば11ページの基本方針、若い世代を中心とした食育の推進で、欠食のある幼児の減少、これが0.3%になっています。改善されていますとおっしゃいました。でも、まだ0.3%、0.3%の子に欠食があるということですよ。このことってどういうことなんだろうという捉え方をされないのか、今後はちゃんとそれについて検</p>

	<p>討していただけるのか、どのように問題が生じていて、そうなのかな把握していただけるのでしょうか。</p> <p>私が知っている事例では、小学校の児童が毎朝「腹減った、動けへん」と言って保健室に来る。そして、学校で用意した食べ物を食べさせているという話があったので、私たちは食べ物を学校にお運びしたのですが、学校から家に持って帰らせるということではできないと言われました。それは学校側の認識が、親が怠けているからということだったからですね。でも、いろいろと探っていったら、親が鬱病で何もできない状況だった。子どもたちも発達障害があって、自分たちできちんと食事を取るという概念が欠落しているというか、例えば朝に牛乳1本を飲むとかそういうことすらできずに、ただ「お腹がすいた、倒れて動けへん」と言うだけの子だったという家庭の問題があったのです。この事例は支援の手を差し伸べる必要があるのではないのでしょうか。子どもたちがどんな御飯を食べるかどうかという以前の話で、ちゃんと御飯を食べることで動ける、これはもう食育の基本だと思うんですよ。そういうことが、この食育推進計画の中では、もうみんな食事は当たり前食べている、でも食生活、知識がないよね、やり方がまずいよねっていうところに組み立てられているような気がして、飽食の時代の食育推進計画かなという気がします。</p> <p>色々な方がおられますが、やはりさっと手を差し伸べられる状況づくり、そして1日1食しか食べてないと答えた子たちは給食にすがって生きているというところで、給食のない日はどうしているのか、これは本気で考えていくべきことだと思います。</p> <p>アンケートって数字が改善されました、悪化しました、といったことを見るためのものじゃないと思います。そのバックに何があるかをしっかりと読み取っていただきたいと思っております。なお、先ほどの事例の子に関しては、今後は教育委員会と市長部局が連携して、対応してってもらえそうな気配は感じております。</p> <p>ただ、今日ここに来られている方々も自分の部の代表として来られていますが、異動がある方もいらっしゃると思うんですね。そういう人たちが、きちんとした形で仕事を引き継いでいけるという事例はあまり見たことがございません。それはもうてんやわんやの中で行かれますから、後々ここから違う部署に行かれてもちゃんと計画が推進されているかどうか、見守って手助けしてあげてください。よろしくお願ひします。</p>
黒川会長	事務局、何かございますか。

事務局	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>前回の審議会でも同様の御質問をいただいたのかなと思っております。評価の値に関しましては、アンケートを取っているため、どうしても、前回との比較を省くわけにはいかないという現状はあるかと思っております。それとともに、今おっしゃっていただきました内容につきましては、社会的な背景も含めまして、どういうことを計画に書いていくか、計画でどういう考えを示していくかということをしっかり書き込んでいくもので、具体的な方法を細かく書くものではないと認識しております。しかし、この場には先ほど末岡委員がおっしゃっていただいたように、たくさんの方が来ておりますので、そこがしっかりと連携していくことを肝に銘じておりますし、またしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にございますか。</p>
井筒委員	<p>アンケートをまとめていただいて、判定や目標達成度も分かりやすく、資料3の4ページ、5ページの色分けも大変分かりやすいなと思っております。判定の「C」のところにつきまして「悪化または変化なし」になっているのですが、内容によってはコロナとかの社会情勢とかで大幅に下がっているところとかもあるので、大幅な悪化などは別の区切りの方が良いのではというのがあります。</p>
黒川会長	<p>悪化にもいろいろあるだろうということですね。事務局、何かございますか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>おっしゃっていただいているように、どうしても3段階で判断している関係上、3段階にも重さというか、大きさの幅というのがあるのかなと思います。その辺の表記の方法につきましてもどのようにしていけばいいかも含めまして、今後また整理していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にございますか。</p>
衣笠委員	<p>全体の所感も含めてになるのですがけれども、私自身は幼稚園・保育園の保護者さんの回答率、それから小中学生の回答率も含めて、全て想像以上に高いと思いました。私は本業においてリアルにお母さんたちと関わる機会が多いのですがけれども、そのお母さんたちの様子から回答率の高さに驚いている次第です。また、郷土料理の認知度であるとか食育の言葉自体に対しても、浸透率など想像しているよりもはる</p>

	<p>かに高い印象を受けました。</p> <p>日頃、感じていることもそうですけれども、先ほど田中委員がおっしゃっていたように、今現状の小学生あるいは中学生のお母さんたちの食育への認知度であったり、興味度というのはかなり高いなと感じています。このアンケート結果からも感じています。中学生、高校生、大学生以上、あるいは私も含めた高い年齢層の者のほうが、郷土料理もそうですし、食育に関しては意識や知識も薄いように感じています。</p> <p>このアンケート結果からも、日頃感じている中でも、小学校・中学校からの発信、幼稚園・保育園からの発信の影響がすごく大きいのではないかなと近年感じています。そういった学校側から、幼稚園側からの発信によって、保護者層や子ども達も、意識が強くなってきているように思っています。例えばSDGsなんかもそうですけれども、親御さん自身の意識というよりも、子どもが学校で習ってきて、その子どもからお母さんが改めて学び直しているというような意識を感じています。となると、中学生であったり、高校生・大学生たち、それからお母さん層というのは、どこで興味を喚起していくのだろうか、意識を変えていくのだろうかと思うと、なかなかその辺りが難しいのかなと思います。学校や保育園・幼稚園からの発信以外の部分で、興味を喚起していく部分がもう少し必要なのかなと感じています。</p> <p>食のイベント等々でも発信されていると思うのですが、それがもしかしたらまだまだ必要なのかなと思います。他にも発信方法があるか検討しても良いのではないかなと思います。また、アンケートの中に、私個人的には現状知るだけではなくて、もし食に対して意識が変わるきっかけがあったとしたら、または変わったきっかけはどういったものなのか、というような項目があれば、現在の情報によって、もしくは環境によって意識がプラスのほうに向いている層は、どういったことがきっかけになってプラスのほうに向いたのか知る手段になり、今後そちらのほうを強化していく、というような取組につながるのかなと思います。今回のアンケートの中には難しかったとは思いますが、意識がプラスのほうに変わった、意識が強くなったきっかけなどを問う項目があればうれしいなと思いました。ありがとうございます。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局、何かございますか。</p>
事務局	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>今回のアンケートにつきましては、今おっしゃっているところは項目としてないのですが、市民アンケートの参考資料1-1になります</p>

	<p>が、12ページに普段、ここでは健康という言葉を使っていますが「健康に関する情報はどこで得ていますか」という質問があり、どういった情報源を参考としているのかというところを聞いております。委員がおっしゃったように、例えば年齢層で20代30代はこのカテゴリーが一番多いのか、高齢者ではどの辺が多いのか、そういった分析も今後必要かなとは思いますが、今後また検討、整理させていただきたいと思っております。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。 他には何かございますか。</p>
山名委員	<p>アンケート結果からは、末岡委員のおっしゃったように数字を見るだけではないと私も思います。よくなったのはなぜよくなったのか、悪くなった原因は何なのかというのをしっかりと考えて改善していかないと、アンケートを行うばかりではよくなれないと思っています。ここで検討することではないかもしれませんが、このアンケートの結果をすごく大事にさせていただきたいなと思っております。</p> <p>また、すごく改善した部分がありましたね。私は枚方市が「食べのこサンデー」とかの活動をされている。それは日曜日ということですが、「食べのこサンデー」のことを知ったら日曜日だけでなく、ふだんから市民の方は冷蔵庫の中を見て無駄のないようにされるのではないのでしょうか。昨今すごく物価も上がっていますから、そういう後押しもあっていい結果が出たかなと思います。SDGsについても、テレビでよく見ますし、枚方市がコツコツとやってきたことが、環境的な背景があって一気にいい結果が出たということで、これからもコツコツとやっていただきたいなと思っております。</p> <p>それで、先ほど質問させていただいた給食の件です。ひょっとしたら3、5回やっているよということかもしれませんが、学校でできない理由は何なのかなと思っております。</p>
事務局	<p>小学校の給食ですけれども、米飯につきましては炊飯委託で、炊飯工場に購入した精米を持って行って炊いていただいて、各学校に配送していただくという方法で行っています。他の自治体の場合、自分のところの調理場で炊いて子どもたちに提供しているところが結構あります。枚方市の場合は、食数が非常に多い、小学校の給食で1日2万食必要であり、全学校分の御飯を炊いて配送するというその能力を持ってできる場所がありません。枚方市の小学校の給食は44校を2つに分けて、21校と23校をAブロック、Bブロックに分けています。Aブロックが御飯のときはBブロックがパンというような</p>

	<p>形で、炊飯して配送する能力を超えないように安定供給している状態なので、1週間に4回米飯を給食で提供すると、2万食を提供する日が出てきてしまいます。現在のところは、炊飯工場のほうにもその辺りの能力を上げていただくような話も多少はしているのですが、なかなか今の経済状況の中で炊飯業者も大きな設備投資を行うことは難しく、進むことができない状況です。</p> <p>また、2万食全部を炊けるような体制にするということになりますと、財政的にも非常に大きな規模で財政支出をすることになりますので、いろんな形で財政面を圧迫してくると非常に難しい問題が出てくるという状態であるため、今のところは4回にしようということがなかなかできずにあります。しかし、中学校給食は選択制で1日3,500食程度なので、こちらのほうについては4.5回、米飯を提供しているという状況です。これも今後、食数が増えていきますとなかなか難しい問題が起きてくるかなという課題がありますが、炊飯業者とやり取りについては、大阪府学校給食会が担っていますので、こちらのほうとも今後は交渉していきたいと思っております。</p> <p>米飯給食に関しては以上ですけれども、先ほど末岡委員からございました1日1食しか食べてない子どもの存在につきましては、委員がおっしゃったとおり、福祉にもお話をいただいているということなので、教育委員会としては中学校給食を選択制から全員給食に、できるだけ早く達成していかなければならない、少なくとも1日1食給食がある日は食を確保していただけるということを進めていかなければならない。この方針で今進めているところです。しかし、委員がおっしゃったように、じゃあ給食のない日の小学生はどうするのとかいろんな問題については、子ども未来部とかあるいは福祉事務所とか、いわゆる子育て関係と福祉事務所の関係とで情報共有を図っていくところで進めておりますので、今後はこの中でどういう支援をしていくのかということ、検討を始めているところということ、一応御報告しておきます。以上です。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>米飯の提供については、なかなか経済的な理由というのかなり大きな問題なので、食材も今高いですね。</p> <p>食育推進の意識を変える、行動を変えるというのは、何がきっかけだったのかということにも着目していくというのは重要だということで、枚方市もいろいろな施策を行っておられる、それらについてきちんと評価する必要もあるのではないかと思います。これをやったおかげ</p>

	<p>げで、これだけよくなかったよという評価も必要ではないかなというお話もいただいたかと思えます。</p> <p>幼稚園・保育所、小学校、その辺りについては、教育機関、保育機関というものがかなり食育の推進について情報提供をしている重要な機関になっているというようなお話もございました。</p> <p>ただ、アンケートを見ているとちょっと耳の痛い結果も出ているようですけどもね、勝委員何かございますか。</p>
勝委員	<p>このアンケートの結果を見ておまして、一つ抜けていると言ったらおかしいですけども、食育の実施のほうでは、保育園・幼稚園ではこのコロナ禍でありまして休園がたびたび重なったりしたことと、あと、保護者の方が園内とか施設内に入れない状況の日々がこの令和4年度、令和3年度のほとんどでございました。そのため、なかなか親子と一緒に給食の体験、クッキングをすとか試食会という形ができなかったのは事実でございます。</p> <p>ただ、保育園に来られないから、幼稚園に来られないからといって食育ができないわけではなく、例えば動画配信で子どもには手遊びを配信いたしまして、その後に給食部門の先生から食育に関する紙芝居をしたりとか、今日はこういう野菜が採れたという動画を配信しておりましたので、お母さんと一緒にお子さんたちは楽しめたのではと思っております。</p> <p>あとですね、朝食なんかも結構動画で私も個人的にT i k T o kとか見ていましたら、簡単に今できる朝食、5分でできるよとかそういう内容の配信もあったり、あとは、この物価高騰の中、食材を買うこともかなり気をつかうと思えますので、時短で安くできるレシピ本というのも売っていたりしていますし、保育園部会でも食育推進としてレシピ本をつくって、それを無料で保護者に配っている施設等もあります。</p> <p>あと、先ほど末岡委員がおっしゃったところで気になった点ですけども、欠食のある幼児の減少というところですが、幼児となると保育園に通っている、3歳6か月健診のときの結果と書いておられますので、この回答については3歳6か月健診というのは2歳児のクラスになりますよね。保育園等に通われている方なのかというところがちょっと気になりましたので、質問させていただきます。以上です。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局はよろしいですか。</p>
事務局	<p>3歳6か月健診のデータについては、基本的には受診されたときに</p>

	<p>お伺いをしており、欠食の理由等もお尋ねするとともに、どうしたら食べていただけるかというようなことのアドバイスも併せてさせていただきます。</p> <p>ただ、今回のこのデータ、また今後分析していく中で属性ですね、家にいらっしゃる方か、どこかへ通っているところがあるかなどについては、また今後確認していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>あと、何かありますでしょうか。若い世代というのは、教育機関というのが非常に食育推進については重要な役割を果たしている。一方で、この中間層といわれるお父さん、お母さん方については、なかなかアプローチするチャンス、機会というのがないのかなということで、そうするとコミュニティの役割というのが非常に大きくなっていくのかなと思うのですが、その辺り、末岡委員どうでしょう。</p>
末岡委員	<p>例えば、PTAがなくなる学校が出てきましたよね。それに追随するような学校が出てくる可能性があります。同じく、校区コミュニティ協議会については、今はなくなっている校区はありませんが、枚方市校区コミュニティ連絡協議会、私がその所属ということで参加しておりますが、枚方市校区コミュニティ連絡協議会から脱会する校区コミュニティ協議会がありました。じゃあ、それに追随しようとする校区コミュニティ協議会もあります。各校区の校区コミュニティ協議会で見ますと、自治会が脱落していています。</p> <p>そして、いろんな役をしたくないという理由の一つとして、例えば青少年育成指導員や民生委員、本当に民生委員は大変な御仕事ですから、あんなコマーシャルでやっているような話とは全然違いますからね。24時間誰も対応できないようなことをなさっています、土日も関係なく。では、校区コミュニティ協議会で何ができるのってところですが、本当に志を持った方々で支えないといけない状況です。そんな人はいますでしょうか。うちの校区はかろうじて、今のところある程度の支え手の数はキープできていますけどね。</p> <p>だから、あらゆるものが崩壊しつつある中、給食に関しても昔はまめにいろんなことを委員がされていましたが、給食委員の負担が大きかったせいとかどうか分かりませんが、PTAの組織改編をされて、いろんなことがなくなっていています。</p> <p>それを踏まえた上で、保護者の方、本当に負担が昔より増えているというのはまたお聞きしないといけないのですけれど、本当は昔より</p>

	<p>ぜいたくな生活をみんながしているから、それを整えるためにみんなは稼がないととなっているのではないかと思うところはあるのですが、その問題は置いときまして、校区コミュニティ協議会とかができることって本当に少ないのですが、お声をかけていただいたらそれでもやっぱりやっていこうと思っている人たちが集まっているのが校区コミュニティ協議会ですので、何かあったらまず声かけしてみてください。ということを枚方市PTA協議会の中でお伝えください。よろしくをお願いします。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にございませんでしょうか。もうだいぶ御時間もせまって来ておりますので、そしたら最後になりますね。案件3、その他について事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは案件3、その他について説明をさせていただきます。</p> <p>資料4を御覧ください。</p> <p>今後のスケジュール案になります。令和5年度第1回枚方市食育推進計画審議会は6月に開催する予定で、その際には現計画の最終評価報告書案及び次期計画の骨子案等について審議していただく予定です。その後、8月には2回目となる本審議会を、11月には3回目となる本審議会を開催する予定です。また、12月には市民の意見募集を行い、令和6年1月に第4回本審議会を開催し、次期計画策定に向けて諸手続を進めていく予定となっております。</p> <p>最後に、別紙を御覧ください。</p> <p>本日の審議を受け、追加で御意見等がある場合、記載していただく用紙を準備しております。何か御意見等がございましたら、3月31日までに健康づくり・介護予防課まで御連絡いただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、審議会後にいただきました御意見につきましては、本審議会会長及び副会長に相談の上、検討を進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>お忙しい中、恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>案件3について、事務局からは以上となります。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、案件3について御説明がございましたが、何か御意見、御質問等ございますか。大丈夫でしょうか。</p> <p>その他、本日全体を通じて何か御意見がございましたら、どうぞおっしゃってください。</p>

<p>衣笠委員</p>	<p>私は、この数年前から御縁がありましてこちらの会議に出席させていただくようになりまして、お恥ずかしながらそういった機会を得て初めて枚方市、皆さんが色々なことをこんなふうに真摯に取り組んでおられて、丁寧に確認されて進められているのだなということを初めて知ったという状況にあります。</p> <p>本当に偶然ですけども、この3月まで私は地域の自治会の7つほどの会長が輪番制で当たっていきまして、初めて地域と市が連携していることであるとか、そういったことでこれだけ取り組んでいるということを知る機会がありました。</p> <p>こういう機会があるまでは、市の取り組む姿勢も分からなかったですし、語弊もあると思うのですが、声を上げても届かないだろうとか、意見をしたらとこで変わらないであろうとか、選挙のときにもよく出てくる言葉ですけども、私自身もそういった意識がありました。なので、多くの人たちがそういった状況にあるのではないかなと想像していますし、私自身が通常の業務の中で関わる機会があるお母さん層にも多く見られます。</p> <p>この食育に関しても、私の所感では興味のある人を見る、知る。興味のある人がより見る、より知るといような傾向にあって、興味がない人あるいは興味を持つことができる状況にはない人には、なかなかこの食育も含めて浸透していきづらい状況なのかなと勝手に思っています。興味がない人あるいは興味を持つことができない人たちには、どういった形で訴えていけばいいのかということころは、こういったネットを通じた、もしくは教育機関を通じた以外にも、ここに参加されている方々の御意見で、すごく深く、より確認できたりもするので、もし機会があればそれぞれの校区コミュニティ協議会であるとかそれぞれの団体であるとかで、生で拾ってきた意見、拾ってきた提案などがあるようであれば、それを共有していただくと、今後につながるのかなと思いました。私自身も、日々の生活の中で拾い上げることができる一般のお母さん層の意見などがあれば、共有させていただけるように努めていきたいなと思いました。ありがとうございます。</p>
<p>黒川会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>見事にまとめていただきました。本当は私が言わなければいけないと思うのですが、本当にコンパクトに見事におっしゃっていただきまして、どうもありがとうございます。</p> <p>食育というのは実はものすごく難しいので、人によって食育の捉え方が違って、例えば箸の持ち方ができたら食育がよくなったとか、</p>

	<p>それは単なるしつけと違うのかみたいな、どんどんあれも食育これも食育とって、概念規定どころかどんどん何でも食育になってきて、食育がよくなったというのは何を見たらいいのか、物さしがないのです。だから、細かい項目の目標をつくってそれが向上した向上しないということで、見ていくしかないのです。それでいろんな項目があつて、その色々な項目をよくしていくためには、様々な立場の人が意見を出し合つて力を合わせてやっていかないと、まさに今おっしゃっていただいたことになろうかと思ひます。</p> <p>この食育基本法というのは理念法ですので、食育をしなかつたからとって何か処罰を受けるわけでもないです。食育というのはとても大事なんだよ、食べることがとても大事なんだよ、これをみんな分かち合おうねというのが、この基本的な理念になってくるわけですので、声を上げてみんなに知ってもらふ。空気をつくるというのが一番我々の、多分やらなくてはならない作業なんじゃないかなとは思ひます。</p> <p>運動でしたら、例えばエレベーターが運動不足を招くからエレベーターを使わないようにしようというのではなくて、エレベーターに乗るよりも階段を歩いていったほうが得よという空気をつくっていくというのがとても大事で、食育も同じようにそういう空気を変えていく。たばこなんか、まさに今もう空気が変わつてきて、たばこを吸っていたら何か申し訳ないような感じになってきましたよね。そういう空気感をつくっていくというのがこの食育推進計画の一番目指すところではないかなと思ひます。そのために何が必要か今おっしゃっていただいたような、今どんな課題があつてというのをぶつけていただいて、それを共有して協力して解決できるところが協力しながら解決していく。みんなとにかく知ってもらふ、現状を知ってもらふ。そしてこういうことをすることによって、みんなが幸せになるんだよ、とても幸せな枚方市民でいられるんだよということを感じていただくという、そういう方向に持っていくというのも恐らくこれからの作業としては大事なかなと思ひます。</p> <p>もつときれいにまとめようと思つて一生懸命頑張つてみたのですが、そのようなことをごさひまして、また御意見をいろいろ頂戴しながらよりよい計画が策定できればと思ひます。</p> <p>最後、何かごさひますか。事務局、何かごさひますか。</p>
事務局	<p>本日もたくさんの御意見をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>アンケート結果の意味を考えると、数字が小さいから問題がないと</p>

	<p>いうことではないと思いますし、例えば数値が 0.3 であってもゼロが一番理想的なのであれば、普段取り組む中で個別に対応することでゼロに持っていくということが大事なのかなと思います。幼い頃から、食育がなぜ大事なのかということも理解することで、その年齢層が上がっていけば全員がその大事さを知るといようなこともあると思います。</p> <p>私どもは高齢者の担当もしておりますが、例えばスマホについては、今回のワクチン接種のことで、スマホの操作に取り組んでいただくような状況が生まれました。これはワクチン接種することがいい状況ではないですが、これを機会にスマホの活用にも取り組んでいただく。そして、もっともっと広げていくことで、スマホを見る機会が増え、さらには市からの情報もたくさん見ていただけるようにもなっていく。私の世代の者が年を取っていく時代になると、今以上にスマホを使っている方々が広がっていく。それが今申し上げたように食育も小さいときから大切さを知ることで、その子どもたちが成長すると食育の大切さを知っている世代がどんどん広がっていくのかなと思います。</p> <p>本当にたくさん様々な御意見をいただいている中で、計画というものをつくり上げていく部分では、拾えない部分もあるかも分かりませんが、市の施策としては取組をしっかりと進めていかなければならない部分もありますので、引き続き御意見をたくさんいただけたらと思います。個別にも、もちろん部内だけではなく市として取り組むようなことにも発展していけば意味があることと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
黒川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後に御挨拶をいただいたのですが、一言だけよろしいでしょうか。評価で達成したが 37.5%なので、他の市町村はどうなのかと調べていろいろ調べたのですが、他の市町村はデータが出てない。要するにコロナで調査ができてない。この調査の結果が出て、本日のような結果を出すということ自体が、実はすごいことだということを改めて知ってですね、本当に枚方市に住んでいて自慢できるぐらいの市であるのじゃないかなと感じました。この一言だけ付け加えさせていただきます。</p> <p>ということで、皆さんどうもありがとうございました。</p> <p>これもちまして、第2回枚方市食育推進計画審議会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。</p>